

◇ 6月の天文暦 ◇

日 時	記 事
5 6	下 弦
6	水 星 外合
23	芒 種 (太陽黄経 75°)
10 9	月 最近
11 21	朔
18 0	金 星 内合
19 1	上 弦
21 16	夏 至 (太陽黄経 90°)
22 10	天王星 留
12	月 最遠
25 6	木 星 衝
27 4	望

言いたい放題・言いたい放題・言いたい放題

外貨べらしと人類文化への貢献

最近の新聞等を読んでいると、政府・財界ともに、増え続ける外貨をいかに少なくするかに、苦慮している様子がよく分る。この外貨をへらすのに、日本を文化大国へと脱皮させるべく金を使うことを、私は提言したい。ある科学評論家が、国民総生産とノーベル賞受賞者の数を比較すると、ソ連と日本は科学研究の競争でスタートを切ったとはいい難いといっている。ノーベル賞の数で一国の文化を云々するのは、賛成し難いが、かといって日本が世界（あるいは人類の）文化に大きく貢献したともいえないであろう。

ある外国の友人から、日本はもてあまして外貨で巨大加速器か大望遠鏡でも作ったらよかろうといわれた。加速器や望遠鏡の製作が必ずしも外貨べらしに役立つか否かは別として、人類文化の向上に役立つような外貨の使い方は、あるように思う。F. ダイソンは巨大加速器の建設が、今後大きく素粒子物理学の進歩に役立つとは考えていない。大望遠鏡ならばどうであろうか。ア

ルフベンのように、太陽系の創造過程の解明は、人類にとって非常に重要な意義をもつものである。してみれば、その第一歩として、太陽系の探索をして、詳細な情報を得ることが必要である。このためにも、どっさり金を使うことができる。また現在発展しつつある生物学の研究の促進も有意義であろう。

科学の発達と並べて考えなくてはならぬのは、人文科学というか、人間の科学というか、そういうものの研究であろう。ケンブリッジ大学の入学事務専任教員から聞いたのだが、優秀な学生が最近、科学を捨て、人文系に行く傾向が強くなった。その理由として、科学研究の急激な発展に伴って、中学・高校で理科のいい先生が少なくなったこと、科学は物質主義と結びつけられて、漠然と敬遠されること、があげられている。科学・技術の発達が人類にとって、善であるか悪であるかは、歴史が決めるであろうが、科学・技術に対する漠然とした不信感が急激に広まりつつあることも否定できない。このことは、今までに、科学と人類の福祉との関係が充分研究されていなかったことにもよるのではなからうか。今世紀が科学の時代であることは否定できないのであるから、人間と科学との関係について、学問的研究がなされてしかるべきであろう。

さてこれらの研究所を日本に置くとして、研究員の国籍は問題としないことが望ましい。また開発途上国からも、研究員を迎え入れなくてはならぬ。単に学術推進の場であるばかりでなく、人類相互理解の場にもしくなくてはならぬ。

我国の学術行政を見てみると、基礎研究はあまり支持せず、もっぱら応用研究にのみ力が注がれていたように思える。しかし両方のバランスなくしては、健全な文化の発展は望めない。外貨のたまり過ぎる時代にこそ、あらためて、日本が世界に貢献し得る道を探し出す必要があるのではなからうか。

(京大工学部数理工学教室 藪下 信)

